



15

第15期 中間事業報告書

平成29年4月1日▶平成29年9月30日

INVESTOR RELATIONS

DELICA REPORT

[デリカレポート]



デリカフーズホールディングス株式会社

DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

※10月1日より、デリカフーズホールディングス様に社名変更いたしました。

東証1部 証券コード 3392

TOP MESSAGE



おおざき よしやす

大崎 善保

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。当第2四半期連結累計期間も順調に売上げが推移し、ここに中間事業報告をすることができました。これもひとえに、株主の皆様のご理解、ご支援の賜物と、重ねて御礼を申し上げます。

当社グループを含む食品関連業界におきましては、消費者の「食の安全・安心への関心」、「節約志向」が恒常化していることに加え、労働市場における需要逼迫に伴う人件費・求人費の上昇、物流コスト上昇等、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社の主要取引先である外食産業において売上が堅調に推移したことに加え、お客様の「食の安全・安心」に対するご要望にお応えすべく、当社グループで取り組んでおりますフードディフェンスを含めた食品安全確保・リスク管理体制、徹底した温度管理体制及び最新の生産設備等を高くご評価いただきました。また、継続的な人手不足の影響に伴いカット野菜・真空加熱野菜の需要が増加したこ

と等により、新規顧客の獲得及び既存取引の深耕が順調に進展いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は17,861百万円(前年同四半期比7.0%増)となりました。利益面につきましては、今年の梅雨は降雨量が非常に少なく、また7月下旬からの長雨・曇天による低温、日照不足等の影響により、8月以降、野菜の調達価格高騰及び廃棄ロスが発生したことに加え、組織再編に伴う費用、物流網構築費用等を計上いたしました。昨年オープンした西東京FSセンターが3月より黒字転換し大きく利益貢献したことにより、営業利益293百万円、(前年同四半期比58.2%増)、経常利益323百万円(前年同四半期比61.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益206百万円(前年同四半期比61.0%増)となりました。

今後もグループ一丸となった営業活動により、さらなる企業価値向上に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

業績の概況

当第2四半期連結累計期間の業績



売上高

17,861 百万円
(前年同四半期比7.0%増)

営業利益

293 百万円
(前年同四半期比58.2%増)

経常利益

323 百万円
(前年同四半期比61.9%増)

親会社株主に帰属する四半期純利益

206 百万円
(前年同四半期比61.0%増)

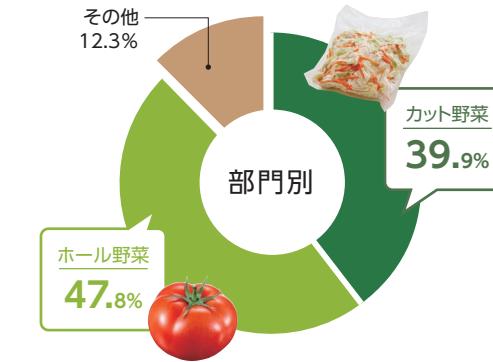
1株当たり四半期純利益

28.11円

第2四半期連結累計期間としての売上高は、過去最高となりました。

利益につきましては、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益の各利益とも、前年同四半期と比べ増加いたしました。

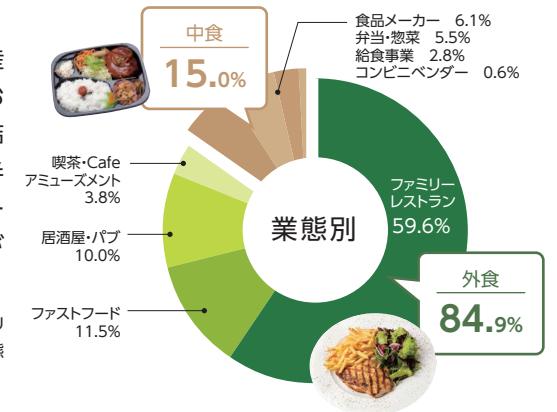
販売構成比



カット野菜とは、開封してすぐに食べられる状態にしてあるパッケージ野菜です。ホール野菜とは、加工しない野菜そのものをいいます。なお、真空加熱野菜はカット野菜に分類しております。

全体の8割以上が外食産業向けの売上となっております。当第2四半期連結累計期間は前年同四半期と比較して、ファミリーレストラン向けの売上が若干増加いたしました。

※ファミリーレストランには、イタリア料理、中華料理、和食等の業態も含まれております。





取締役
(未来開発最高役員)
にわ ますみ
丹羽 真清

デザイナーフーズ株式会社
代表取締役社長 兼任



専務取締役
すぎ かずや
杉 和也

大阪デリカフーズ株式会社
代表取締役社長 兼任(※1)



取締役
こばやし けんじ
小林 憲司

東京デリカフーズ株式会社
取締役副社長 兼任(※1)



社外取締役
おざき ひろゆき
尾崎 弘之



取締役会長
たちもと いさたけ
館本 勲次



新任
社外取締役
しばた みすず
柴田 美鈴

Message

現代社会では外食・中食する機会が増えています。しかし、利用される方は手軽さを感じつつも、心のどこかで食の安全への不安を拭き切れていないのが実情ではないでしょうか。当社が目指すべきなのは、「デリカフーズの野菜を使っているのなら大丈夫」と消費者の方に真に信頼していただくことで他の食品関連企業や日本の外食・中食産業自体の価値を引き上げていく存在と考えます。当社が地に根を張りながら堅実に成長していけるよう、社外役員としての視点を活かし経営に貢献していく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成12年に弁護士登録。平成13年11月、開設メンバーの1人としてNS総合法律事務所を設立し、平成19年より2年間の金融庁監督局勤務を経て、同事務所に復帰、現在に至る。平成29年4月より司法研修所民事弁護教官、平成29年6月、デリカフーズ㈱の社外取締役に就任。



新任
社外監査役
みしま こうた
三島 宏太

Message

野菜を加工するだけでなく、産地の開拓から顧客への流通まで、横断的に事業を展開しているデリカフーズ。そのため商流の上流から下流まで、あらゆるニーズを的確に把握できることが強みです。産地には高付加価値な商品の開発を助言し、消費者には安心安全な商品を届けることで、持続可能な産業と市場を構築することに貢献する。これがデリカフーズの役割だと思っています。当社に対する市場の信頼をより強固なものとするべく、最大限に努力してまいりますので、株主の皆様の一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成15年に弁護士登録。平成28年8月に三島宏太法律事務所を開設し、平成29年、デリカフーズ㈱社外監査役に就任。元中部労災看護専門学校非常勤講師。現在はエフエム愛知放送番組審議会委員を務める。

DELICA FOODS HOLDINGS

グループ再編と事業統合で よりスピーディーな経営へ！

平成29年10月1日、中期経営計画達成に向けて当社グループを再編いたしました。これにより、経営の効率化と収益力の向上を図ります。また、東京デリカフーズ(株)は名古屋デリカフーズ(株)・大阪デリカフーズ(株)と事業統合し、デリカフーズ(株)として生まれ変わりました。



一体的な事業運営で管理体制を一元化し、スピード感のある経営を実現。お客様へ提供するサービスのクオリティを、より一層向上してまいります。



(※1)いずれも9月30日時点の役職です

デリカフーズグループ 4 社のトップメッセージ “食のバトン”をつなぐ プロフェッショナルたち

[デリカフーズ株式会社] 成果を出し続けることで社会に貢献

青果物流通を拠点ビジネスと捉え、新物流センターと新工場(カット・加熱野菜・フルーツ)を中期経営計画通りに実現し、デリカブランドをお届けするための全国供給網を構築、売上拡大を進めていきます。また、企業収益と天候リスクヘッジを考慮し、日本全国にまたがる産地形成と、東・東南アジア、北米、オセアニア諸国を中心とした海外産地の開拓を進めております。更には、植物工場への進出も視野に入れ、検討していきます。デリカの成長戦略に対して、対処しなければならぬのが雇用難。社員の育成はもちろんのこと、海外技能実習生の雇用、更にはAI技術とロボットアームを活用し、少人化物流センター計画を進行中です。社会のために何ができるかを常に自問し、ビジョンを考え抜き、前進を止めないこと。そして成果を出すこと。今後も事業の発展と社会貢献のために邁進してまいります。



取締役副社長
小林 憲司

Corporate Data
「業務用の八百屋」として、契約産地などから仕入れた野菜を飲食店や食品メーカーなど食を提供している企業に販売。また、カットや真空加熱などの加工業務も行っています。



青果物
商社

[デザイナーフーズ株式会社] 抗酸化力の研究をもとに 野菜と健康の関係を提唱

野菜が活性酸素をどのように消去するかを長年研究し、野菜の品質を抗酸化力で評価するエビデンスの構築を進めております。その他にも、真空加熱野菜の開発や、非破壊で野菜の中身を判断できるソフトの開発を担当。また、食のコンサルティングとしまして、研究結果を生かして食べ方をデザインし、フードサービス業や量販店などに販売方法を提案しております。これからも講演活動やセミナー等を通じて、野菜の重要性を伝えていきたいと考えております。そして、日本が抱える食と健康の問題に対してあらゆる業界の方々と取り組み、解決してまいります。

抗酸化研究
コンサル事業



[株式会社メディカル青果物研究所] 受託分析を通して野菜の魅力を伝える

デリカフーズグループの研究開発で約20年蓄積してきたデータやノウハウを生かし、受託分析業務を行っています。特に抗酸化力の測定は、当社が最も得意としている分野。他にもフィットケミカル(ファイトケミカル)の成分分析、野菜や土壌に含まれるミネラル分析を中心に、さまざまな研究分析を行っています。今後の目標は、試験分析機関の国際標準規格であるISO17205を早急に取得すること。また、分析結果を元に生産や販売・消費に対して必要な情報提供をしながら野菜の新しい価値を創る“コンサルティングのできる分析会社”を目指します。

食品の
分析事業



代表取締役社長
丹羽 真清

Corporate Data
「野菜で健康」をテーマに、抗酸化研究を行う。分子栄養学からメニューの提案やコンサルティングにも取り組む。毎月「生命食セミナー」を開催し、野菜と健康に関する情報を発信しています。



代表取締役社長
市野 真理子

Corporate Data
2017年6月にデザイナーフーズ㈱の受託分析サービス部門を分離移管し、同事業を行っている。野菜をはじめとした食品の分析業務を行い、青果物の価値創造に取り組みます。

[エフエスロジスティックス株式会社] 日本中に野菜を届けるため 5年後の全国展開を目指す

ドライバー不足や長時間労働の問題など、昨今の物流業界は危機的な状況です。配送のクオリティ維持が難しい中で、自社配送比率を高めることで不測の事態を回避し、絶え間ない供給体制を継続することが可能になります。運送する野菜は、鮮度が命。ISO22000に沿った高い安全品質を保つため、配送効率を重視したルート構築を行ってまいりました。また、名古屋営業所を開設し、2017年4月には東京と名古屋を結ぶ幹線便のトライアル運行を開始。2拠点で野菜を相互に融通し合うことで、コスト削減と原料の安定調達を実現いたしました。今後も5年後の全国展開を目標に、主要都市を中心に営業所を開設する予定です。お客様、お取引先様、そして従業員の満足度100%を目指し、キラリと光る物流会社へと成長を続けてまいります。

物流
事業



代表取締役社長
吉川 直樹

Corporate Data

東京デリカフーズの物流部から独立し、工場内で加工した新鮮な野菜を365日24時間チルド配送。ISO22000に基づいた温度管理を徹底し、フレッシュかつスピーディーな物流を実現します。



広がるデリカフーズグループの拠点

平成29年10月1日、東京・名古屋・大阪の経営統合に伴い、各社の社名が変更になりました。

持株会社 デリカフーズホールディングス株式会社

青果物商社 デリカフーズ株式会社

- ▶ 東京事業所 [本社] (東京都足立区)
東京FSセンター(東京都足立区) ISO22000 FSSC22000
東京第二FSセンター(東京都足立区) ISO22000 FSSC22000
保木間物流センター(東京都足立区)
三郷センター(埼玉県三郷市)
大田センター(東京都大田区)

- ▶ 仙台事業所 (宮城県仙台市)
福島工場(福島県伊達市)

- ▶ 西東京事業所 (東京都昭島市) ISO22000

- ▶ 神奈川事業所 (神奈川県大和市) ISO22000

- ▶ 名古屋事業所 (愛知県弥富市)
子宝工場(愛知県弥富市) ISO22000
かの里工場(愛知県名古屋市)

- ▶ 奈良事業所 (奈良県磯城郡) ISO22000

- ▶ 大阪事業所 (大阪府茨木市) ISO22000

- ▶ 兵庫事業所 (兵庫県加古郡) ISO22000

- ▶ 九州事業所 (福岡県古賀市)

抗酸化研究/コンサル事業 デザイナーフーズ株式会社 (愛知県名古屋市)

食品の分析事業 株式会社メディカル青果物研究所 (東京都足立区)

物流事業 エフエスロジスティックス株式会社 (東京都足立区)

- ▶ 東京営業所 (東京都足立区)
- ▶ 名古屋営業所 (愛知県名古屋市)

※この他、全国に協力会社があります。



デリカフーズホールディングス株式会社

新社長の大崎がラジオに出演し
藤本誠之氏と対談



ラジオNIKKEIで毎朝放送されている「マーケットプレス」の1コーナー、「この企業に注目! 相場の福の神」の5月9日放送回に、当社代表取締役の大崎が出演いたしました。この番組は、証券アナリストの藤本氏が独自の視点で厳選した注目企業を取り上げ、対談するもの。番組内では研究開発によるビッグデータの活用や真空加熱野菜について語り、当社の強みをアピールいたしました。



株式会社メディカル青果物研究所

レモンを非破壊で検品できる
中腐検出装置を開発中



(株)メディカル青果物研究所は大手光学機器メーカーと共同で、レモン中腐検出装置を開発しております。レモンを破壊することなく、光を当てて中腐れを検出できる仕組みとなっており、1時間で2,000個の検品が可能。現在一部の法人様で出荷しているレモンは、全てこの機械で検品しております。産地の切り替えも考慮し、今後も検証を続ける予定です。



デリカフーズ株式会社

西東京FSセンターが
ISO22000を取得



デリカフーズ(株)西東京FSセンターで、ISO 22000を取得いたしました。これは、食品の安全性を保持する体制づくりに関する国際規格のこと。これでデリカフーズ(株)の工場としては10工場中8か所目の取得となります。当社ではこれからも衛生管理を徹底し、皆様に安全な商品をお届けできるよう努力してまいります。



Check!
株主優待

長期保有優遇株主優待を拡充しました

対象条件	優待内容
3年以上継続して1,000株以上2,000株未満保有	高級米「命仁(みょうじん)」2kgを贈呈
3年以上継続して 2,000株以上保有 NEW	高級米「命仁」2kgに加えて 1,500円相当の旬の果物を贈呈 NEW



デリカフーズホールディングス株式会社

「日経IRフェア」に出展
個人投資家に当社をアピール



平成29年8月25日・26日、東京ビックサイトにて「日経IRフェア」が開催されました。当社も出展し、個人投資家の皆様に、当社の魅力を説明いたしました。昨年を上回る入場者数で、盛況のうちに閉幕となりました。





四半期連結貸借対照表 (要旨)

単位：千円

科目	第14期 前連結会計年度 (平成29年3月31日)	第15期 当第2四半期連結累計期間 (平成29年9月30日)
■資産の部		
流動資産	8,926,569	8,796,189
固定資産	9,136,227	9,297,150
資産合計	18,062,797	18,093,339
■負債の部		
流動負債	4,764,890	5,009,187
固定負債 ①	6,201,871	5,849,085
負債合計	10,966,761	10,858,273
■純資産の部		
株主資本	6,998,605	7,104,333
その他の包括利益累計額	95,526	130,732
新株予約権	1,902	—
純資産合計	7,096,035	7,235,066
負債純資産合計	18,062,797	18,093,339



四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位：千円

科目	第14期 前第2四半期連結累計期間 自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	第15期 当第2四半期連結累計期間 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	442,197	348,333
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,247,506	△168,355
財務活動によるキャッシュ・フロー	16,695	△867,999
現金及び現金同等物の増減額△は減少	△788,614	△688,021
現金及び現金同等物の期首残高	4,564,330	4,462,725
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,775,716	3,774,703



四半期連結損益計算書 (要旨)

単位：千円

科目	第14期 前第2四半期連結累計期間 自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	第15期 当第2四半期連結累計期間 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日
売上高	16,695,162	17,861,138
売上原価	12,850,563	13,724,515
売上総利益	3,844,598	4,136,623
販売費及び一般管理費	3,659,275	3,843,493
営業利益	185,323	293,129
営業外収益	38,815	46,315
営業外費用	24,299	15,931
経常利益	199,839	323,513
特別利益 ②	28,625	3,505
特別損失 ②	33,894	6,438
税金等調整前四半期純利益	194,570	320,581
法人税、住民税及び事業税	66,095	113,759
親会社株主に帰属する 四半期純利益	128,474	206,821

	第14期 前第2四半期連結累計期間 自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	第15期 当第2四半期連結累計期間 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益(円)	17.53	28.11
1株当たり純資産額(円)	937.49	981.48
自己資本(百万円)	6,873	7,235
自己資本比率(%)	39.3	40.0

決算数値のポイント

① 固定負債

固定負債は前連結会計年度末に比べて5.7%減少しました。これは、主として長期借入金が457百万円減少したことなどによります。

② 特別利益・特別損失

特別利益の主な内訳は保険解約返戻金3,230千円、特別損失の主な内訳は固定資産除却損3,983千円、合併関連費用1,598千円などとなっております。

産地
レポート
vol.9

デリカフーズに野菜を納入していただいている生産者のみなさんをご紹介します。

刈谷農園
[北海道]

北海道網走郡美幌町福住



刈谷農園の刈谷武さん



美味しく安全な農作物の生産を目指す人たちが集まり、「チームやらまいか」を結成。デリカフーズとのお取引もこの時に始まりました。刈谷農園もチームの一員として、コール農法を活用し美味しい野菜作りに尽力しています。

“コール農法”を取り入れ、安全で美味しい玉ねぎを栽培。

オホーツク海が近く、夏は涼しく冬は寒さの厳しい気候が特徴的な、北海道の美幌峠。その麓で昭和8年から家族で農業を営んでいるのが、「刈谷農園」です。東京ドーム約6個分の広大な敷地で、玉ねぎや小麦、人参などを育てています。特に力を入れているのが、創業当初から生産している玉ねぎ。こだわりの農法で、大切に栽培しています。

野菜作りで意識しているのは、どんな天候でも安定して美味しい野菜を生産すること、そして農薬を減らす努力を行うこと。そのために取り入れているのがコール農法です。これは、農作物の成長ステージに合わせ、必要な要素を適切な

量だけ与えることで、野菜本来の力を引き出し育てる方法で、一度に肥料を与えて急速に成長させ、市場に売り出す従来のやり方と比べて、農薬を減らすことができ安全性が高まります。また、野菜を甘やかさずに育てるので、味が濃く栄養価の高い野菜が生産できるのです。

配送した先で野菜を食べたお客様から「美味しい!」と喜んでいただくことがなによりのやりがい。さらに美味しく人々の健康に貢献できるような、「葉草」ともいえる農作物を生産するのが今後の目標です。同じ考えを持つ仲間を増やしながら、刈谷農園は挑戦を続けていきます。

会社概要

平成29年9月30日現在

商号	デリカフーズ株式会社 (10月1日よりデリカフーズホールディングス(株)に社名変更)		
英文社名	DELICA FOODS CO., LTD.		
設立	平成15年4月1日		
創業	昭和54年10月6日		
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号		
資本金	1,377,113千円		
従業員数(連結)	426名(他、平均臨時雇用者数1,570名)		

役員

代表取締役社長	大崎 善保	社外取締役	尾崎 弘之
取締役(未開発最高役員)	丹羽 真清	社外取締役	柴田 美鈴
専務取締役	杉 和也	常勤監査役	野村 五郎
取締役	小林 憲司	社外監査役	森田 雅也
取締役会長	館本 勲武	社外監査役	三島 宏太

会計監査人 仰星監査法人

株式状況

平成29年9月30日現在

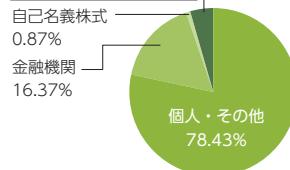
発行済株式総数 7,436,000株
株主総数 12,481名

大株主

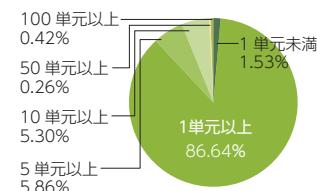
館本 勲武	1,040,400株
館本 篤志	1,019,200株
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口)	418,200株
日本マスタートラスト 信託銀行(株)(信託口)	403,500株
大崎 善保	125,000株
デリカフーズグループ 従業員持株会	109,300株
丹羽 真清	107,900株
岡本 高宏	100,100株
野村 五郎	99,400株
GOVERNMENT OF NORWAY 常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店	81,800株

【株主分布状況】

金融商品取引業者 0.62%
その他国内法人 0.50%
外国法人等 3.20%



【所有株式数別分布状況】



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL.0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 株式会社東京証券取引所 (証券コード 3392) 電子公告により行う
上場証券取引所 公告の方法	電子公告により行う 公告掲載 URL http://www.delica.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



デリカフーズホールディングス株式会社 DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



デリカフーズ <http://www.delica.co.jp/>

【お問い合わせ】 TEL 03(3858)1037 FAX 03(5851)1056



本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、大豆油などをリサイクルして作られたベジタブルインクを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。